

# 構造例示型(事例6) 常時汚泥移送稼働による水質改善事例

## 【槽内状況】



通常の調整は汚泥移送停止。

事例番号	6			浄化槽メーカー	藤吉工業(株)		
処理方式	嫌気ろ床接触ばっ気			浄化槽型式	AWF1-5DI		
法定検査日	平成 24 年 11 月 28 日			人槽	7 人槽	使用人員	3 人
測定項目	1次処理 1室	1次処理 2室	2次処理	処理水槽/沈殿槽	放流水		
スカム厚(cm)	0	0	—	0	透視度	13 度	
堆積汚泥厚(cm)	10	16	12	3	DO	1.8 mg/ℓ	
透視度(度)	11	10	12		pH	6.8	

法定検査からの 状況連絡・指示内容	槽内状況	汚泥移送停止。 空気逃がしバルブ1/2回転(開) 日平均汚水量 0.94m <sup>3</sup> /日 2次処理槽内に堆積汚泥厚12cm。(多い) 採水時間15:35				
	対策	2次処理槽内に堆積汚泥が多い為、逆洗及び汚泥移送を繰り返し実施する。 2次処理槽内の透視度が回復するまで、汚泥移送を1.0ℓ/分で稼働する。				
保守点検からの措置 返信内容	11月30日	逆洗後、汚泥を沈降させ移送実施(3回) 汚泥移送は停止のまま様子を見る。 (2次処理槽内透視度11度)			透視度	12 度
	12月6日	逆洗及び汚泥移送実施(2回)2次処理堆積汚泥厚6cm 2次処理槽内透視度14度でさほど向上していない為、 汚泥移送を1.0ℓ/分で稼働する。			透視度	17 度
	12月14日	逆洗及び汚泥移送実施(2回)2次処理堆積汚泥厚4cm (2次処理槽内透視度19度)			DO	2.9 mg/ℓ
	12月21日	透視度回復。堆積汚泥厚2cmに減った為、 常時汚泥移送は停止する。 DO低下防止の為、空気逃がし1/4回転(開)に変更。			pH	7.0

## 【ポイント】



① 2次処理底部汚泥を手動移送する  
汚泥の色は黒く濃い。

② 移送汚泥をメスシリンダー(1ℓ)に採り、  
30分後、18%(少ない)  
上水の白濁が透視度に影響している。